

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 4年次生 辻中海斗

1. はじめに

この度、本学の国際交流基金の助成を受け、平成27年2月8日～3月4日の1か月間アメリカのロサンゼルスを訪んしてきたので報告します。現地では、ホームステイとしてホストファミリーと共に生活しながら語学学校に通い、英語力の向上とともにカルチャーを学ぶことを主な目的としました。

2. 語学学校について

今回、50年の歴史があり世界16カ国44都市に語学学校を運営しているEF・Education Firstという学校にお世話になりました。

とても大きな学校なので生徒も多く、特にフランス人と日本人が圧倒的に多かったです。日本人はちょうど長期休暇の学生が多く、毎週新しい留学生が何人か入学してきていました。クラスはレベルによっていくつものクラスに分けられ、選択科目などは自分で選べるというシステムでした。基本的に、日本人は下のほうのクラスに集まるので、レッスンはな

るべく他国の生徒と一緒に受けるように心掛けていました。もちろん英語以外の言語を学校内で使うことは禁止です。レッスンの内容は、「仕事」「スポーツ」「医療」「食」など週ごとに1つテーマがあり、自分の国のことについて話したり、それについてディスカッションしたり、プレゼンテーションしたりするという内容でした。レッスンを通して英語力だけでなくいろいろな国のことも知ることができました。



Figure 1 My classmate

3. アクティビティについて

学校にはアクティビティというイベント部署のような部屋があり、無料のものから二泊三日のラスベガス旅行などさまざまなイベントが用意されています。その中から自分が参加したいものをピックアップし、登録するのです。アクティビティに参加することのメリットは、普段クラスが違う生徒も多く参加するため友達がたくさん増えることです。私は実際ハリウッドサインへのハイキングや、ステーブルズセンターでのNBAの試合、UCLA大学への見学などに参加しました。

どれもとても有意義な時間を過ごすことができました。

4. ロサンゼルスについて

初めは治安が良くないと聞いていたので、常に警戒しながら街を歩いていましたが現地の人は親切な人が多かったです。地図を見ながら立ち止まっていると、「どうしたの?」と話しかけてくれ、とても助かりました。かといっていい人ばかりではなく、アメリカはホームレスがとても多く、優しく言い寄ってきてお金を求めて来られる等、怖い経験もいくつかありました。カリフォルニア州は水不足のため、お風呂は5分以内でとかトイレトペーパーは流さないでとか日本と

はまったく違う生活環境を体験することもできました。ロサンゼルスは、ビーチが多く気温は冬でも昼間は20℃を超える暖かさのため、休日はビーチが人で溢れかえっています。まるでロサンゼルスだけ時の流れが違うのではないかというくらいゆっくり時間が過ぎていく毎日でした。ただ、物価が少しだけ高く、ドラッグストアも24時間営業なのですが、薬はとても高かったです。

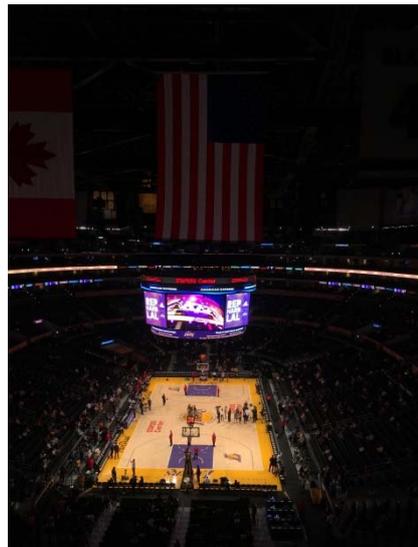


Figure 2 ステープルズセンターにて NBA の試合

5. 最後に

私が、今回の短期留学で一番感じたことは、他国の(特にヨーロッパの人たち)の意識の高さでした。正直、「この人何しにロスに来ているのだろう」という日本人を多く目の当たりにしました。平気で日本人同士でずっと過ごし、日本語を乱用するただの観光目的の人たちです。ヨーロッパの人たちは、文法が似てることもあり、英語が話せる人は多いです。しかし彼らは常に上のレベルを求めており、一つのことを聞くと二分間くらい話し続ける勢いで返事が返ってきます。

そして、自分の国のことをよく知っており、自分の目的も明確に持っているため常に話したい、知りたいという素直で貪欲な姿勢に私も刺激されました。決してヨーロッパの人に限りませんが、このような点は日本人がとくに学ばなければならないのではないかと思います。

今回様々なカルチャー、考え方などを通じて私自身成長できたこと、英語力がまだまだ必要であること、今後來日している他国の人々の力になれるよう努めること、これらの収穫を今後も活かしていきたいと思います。

国際交流基金の助成によって、このような貴重な経験の数々を頂く機会を設けていただき、大変光栄に思います。